

岐阜県 ふるさとと教育実践集

～ふるさとへの誇りと愛着をはぐくむ～



岐阜県教育委員会

令和6年3月



目次

1	ふるさと教育の推進について	1
2	「岐阜県ふるさと教育表彰」最優秀賞受賞校の実践	
■	令和4年度	
(1)	各務原市立蘇原第二小学校	2
(2)	郡上市立大和北小学校	4
(3)	海津市立平田中学校	6
■	令和5年度	
(1)	美濃加茂市立伊深小学校	8
(2)	恵那市立東野小学校	10
(3)	飛騨市立古川中学校	12
3	「岐阜県ふるさと教育表彰」最優秀賞・優秀賞受賞校一覧	
・	令和4年度	14
・	令和5年度	15
4	「ふるさと教育」×「総合的な学習の時間」実践にあたって	16
■	参考資料	17



表彰式の様子（令和5年度最優秀賞：飛騨市立古川中学校）

ふるさと教育の推進について

「清流の国ぎふ」と呼ばれる岐阜県内には、世界に誇る自然・歴史・伝統・文化・産業が数多くあります。そんな本県では、清流の国ぎふ憲章に基づき、岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）の目標1に「ふるさと岐阜」を学ぶふるさと教育の充実を掲げ、小・中・高等学校一貫して「ふるさと岐阜」への誇りと愛着をはぐくむ教育の充実を目指してきました。

小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校（小・中学部）においては、身近な自然や社会、地域の人々との触れ合いを深めたり、岐阜県が誇る自然、歴史、文化、産業等に関する施設・史跡等で行う体験活動の機会を生かしたりするなど、「ふるさと岐阜」の魅力を知る活動の充実が図られ、高等学校においては、学校の特色に応じ、ふるさとの活性化や課題解決に向けて探究する活動が進められています。

こうしたふるさとの魅力や課題を知る学習や地域課題を探究する学習における優れた実践を顕彰し、その普及・啓発を図るため、「岐阜県ふるさと教育表彰」を実施しています。なお、小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校（小・中学部）の部の表彰に当たっては、次の3点のうち、少なくとも1点以上を踏まえて、ふるさと教育を実践している学校を対象にしています。

- ① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼稚園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践
- ② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然、歴史、文化、産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践
- ③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践

令和元年度からの小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校（小・中学部）の応募状況は下表のとおりです。

年度	R元	R2	R3	R4	R5
応募校数	117校	82校	93校	92校	131校

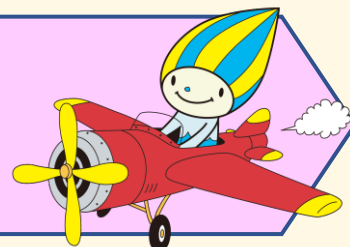
本県の推進する「ふるさと教育」も、長く続いたコロナ禍の影響を大きく受けました。

この3年間、各学校においては地域で活動することが制限されたり、活動そのものが実施できなかつたりして、令和元年度には117校あった応募が大きく減少しました。しかしながら、令和5年5月に感染症法上の位置付けが5類に移行したことにより、地域での活動が再開し、コロナ禍前以上に熱心に実践される学校が増えました。

こうしたこともあり、令和5年度の小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校（小・中学部）の応募数は、過去最多となる131校となりました。各学校においては、総合的な学習の時間の本質を捉え、例えばコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、地域に暮らす人々や専門家を招くなど、多様な人々の協力を得た実践が増えてきています。本県の「ふるさと教育」は着実にそのすそ野を広げていると言えます。

令和6年度から新たに始まる「第4次岐阜県教育振興基本計画」にも、今後5年間の重点的な施策として、「ふるさと教育の推進」を位置付けています。各学校におかれては、「岐阜県ふるさと教育表彰」で最優秀賞に輝いた学校の実践を参考に、引き続き「ふるさと教育」の充実を図ることを通して、「ふるさと岐阜」ではぐくんできた自信と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人の育成に尽力されることを願っています。

各務原市立蘇原第二小学校



1 学校の教育目標

しなやかに 真心をもって あすを拓く

2 ねらい

児童が地域に出向き、地域の人々と関わりながら、ふるさとの魅力や課題を見だし、課題解決に向けての探究的な学習を通して、ふるさとの魅力を再発見し、ふるさとの未来を創造する実行力を養う。

3 実践の概要

(1) 地域の人々と関わりながら、探究的な学びを展開する

どの学年も地域に出向き、地域の人々と関わりながら学ぶ過程が、指導計画に具体的に位置付いている。その中で、児童が解決したい課題を見だし、情報を収集したり、自分たちに出来ることを整理したりして、地域の人々に伝えていく。探究的な学習のサイクルが連鎖し、ふるさとの未来を自分事として考え、実行していく力が育っている。

(2) ふるさと（蘇原）を愛する心やよりよいふるさとを創造する力をはぐくむ

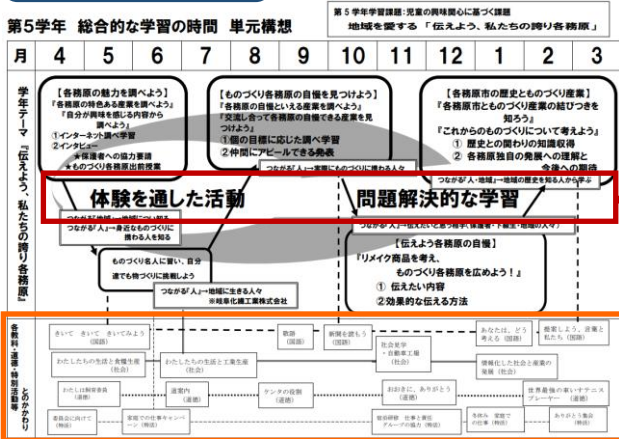
- 第1・2学年…生活科の学習をシニアクラブの方や見まもり隊の方に協力していただきながら展開し、触れ合いを通して地域の方の温かさを感じ、周りの人に支えられて大きくなったことを実感したり、お世話になった人に感謝の気持ちを伝えたりしている。
- 第3学年…校区内にある店へ見学に行き、店員の方にインタビューをして、地域のことを詳しく知るとともに地域の方の思いや願いに触れ、これからの蘇原をどうしていきたいかについて考えている。
- 第4学年…地域の方を講師として招き、蘇原地区の自然について、昔と現在の様子を聞いている。また、自然を通して地域を活性化しようとしている方の話を聞いて、今の蘇原地区の課題やこれからの蘇原地区の未来について考え、自分たちにできることを見つけて活動を進めている。
- 第5学年…地域の企業で勤めている方の話を聞いたり職場の見学をしたりした。中でも、廃材を利用して新しい商品を開発している地域の方とつながりを持ち、蘇原(各務原)のまちには、人々が関わり合いながら安心して豊かに暮らすことができるようにするための「ひと」「もの」「こと」があふれていることを学んでいる。
- 第6学年…蘇原地区で働く保育士や高齢者、外国人の方と関わりを持ち、全ての人が幸せに生活ができるよう、自分たちにできることを考え、取り組んでいる。
- コスモス学級(特別支援学級)…地元のJAの方や地域の畑に携わる方から野菜などの栽培の仕方を学び、一緒に畑作業をしながら栽培の楽しさを味わうとともに、地域の方とのつながりをつくり、ふるさとの仕事の面白さを感じている。



4 各務原市立蘇原第二小学校の実践について

単元構想

～探究的な学びの工夫がある「ふるさと教育」～



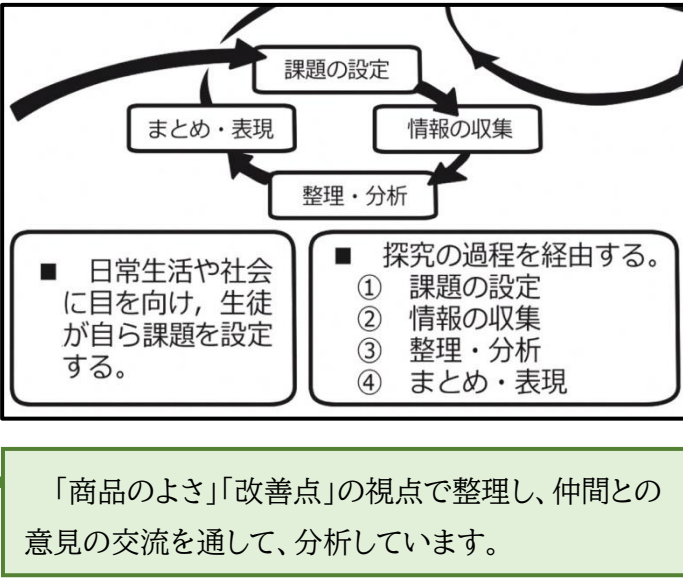
体験を通した活動からの問題解決的な学習の設定
 実際にもものづくりに携わる人々から学び、自分たちでリメイク商品を考え、ものづくりを各務原市に広めています。

各教科、特別の教科 道徳等との関連
 社会科「わたしたちの生活と工業生産」や特別の教科 道徳「おおきに、ありがとう」等との関連を図り、ふるさととのつながりを深めています。

4. 本時の展開

段階	学習活動
つかむ	1. 本時の学習の課題を確かめる。 ・単元『リメイク商品を考え、ものづくり各務原を伝えよう！』
やってみる	リメイク商品を発表し、より良い商品にするための改善点を交流し合おう。 2. 4つの商品について、2グループがクラスに発表をする。 商品1：不織布ボール 商品2：コースター 商品3：ストレス解消クッション 商品4：スキマキラー（掃除道具） グループの発表を見るときの2つの視点を知る。 ①【商品の良さ】②【よりよい商品にするための改善点】 3. 発表を聞いて「商品の良さ」と「改善点」をプリントに書き、発表をする。 ・もっと華やかにすると人気になりそう。（コースター） ・糸がほつれてる所があるから頑丈にできないかな。（ボール） ・株の先がぬげやすい。（スキマキラー）
ふりかえる	4. 岐阜化繊工業の林さんの話 ものづくりについての思いや岐阜化繊工業が開発した「息する植木鉢」について話して頂く。 5. 各チームに分かれて、どのように改善するか話し合う。 棒から抜けないように、滑り止めをつけよう。（スキマキラー） 6. 各チームの代表が改善案を発表する。 7. 林さんの話を聞いて、ものづくりに関して感じたことを発表する。

本時の展開



～自分の生き方について考える「ふるさと教育」～

(1) 自分たちの住む地域（蘇原地区、各務原市、岐阜県）に関わりが深い人たちとつながる
 活動の中で地域の人たちの思いや願いを知り、そこから生まれた疑問や願いを基に、よりよいふるさと（未来の蘇原地区、各務原市）を創る活動を仲間と共に進めています。また、仲間との意見交流を通して、自分の考えを広げたり、深めたりしています。

(2) 地域の人々の思いを知り、一緒に考え、一緒に行動する
 自分たちが地域の人たちとつながり、その人たちの思いを知り、一緒に考え、一緒に行動することで自分も地域の一員であると自覚し、ふるさとを愛する心情を養えるようにしています。

そして、今までの自分の考えや今の自分の考えを振り返る活動を行い、自分の生き方とつながるようにしています。



郡上市立大和北小学校



1 学校の教育目標

夢に向かって生きる かしく やさしく たくましく

2 ねらい

小学校における発達の段階を踏まえ、自分たちが暮らす地域について、体験的に知り、楽しみ、理解を深めながら学習する中で、地域を愛する人と出会い、その思いに触れることで、地域への愛着や誇りを育てる。

3 実践の概要

(1) コンセプトは「ふるさとは“人”」

大切にしたいのは「その地域に暮らし、地域を愛する人との出会い」。自分たちが暮らしている地域について楽しみながら知る中で、地域を愛している人と出会い、その人が「この地域を大切に思っている」「この地域が好きなんだ」という思いを知り、それに共感することが、大和北小学校の「ふるさと教育」の中核を成している。

(2) 各学年での教科の学習と総合的な学習の時間での学びとをつなげる

これまでも、大和北小学校で大切に営まれてきた「郡上学」を引き継ぎつつ、その学習が、地域を知り、地域への愛着や誇りにつながるように学びを計画し、実践している。

(3) コミュニティ・スクールとして 地域の人と共に創る“ふるさと教育”へ

大和北小学校が力を入れているのは、コミュニティ・スクールとしての学校と地域づくりである。「学校と地域がパートナーとなって、よりよい地域や学校を共に創っていく」そんな思いや願いを、保護者や地域住民へと広めていきたいと考え、学校運営協議会委員に、学校の「パートナー」としての立場から意見をいただきながら、学校づくりを行っている。自由に語り合える場を設けた中で、見えてきた願いの1つに「子どもたちに、地元の歴史や魅力をもっと知ってほしい」ということがあった。この願いは、例えば、5年生の「米づくりと『剣用水』の学習」につながる。地元が誇れる地域資源を学ぶとともに、それを大切にする人の思いや尽力している人の存在、先人の知恵を子どもたちが知ることができた。そして、学んだことを、学習発表会で交流し、



学校全体で共有できたことが大きな成果となった。さらに、こうした活動をケーブルテレビ等で紹介して、広く知ってもらうことが、保護者や地域の方々にとっても「ふるさとの歴史や財産や魅力を再発見する」ことにつながることを感じた。講師を務めていただいた方にとっても、自分たちの思いを地域の方々に広く知ってもらえる機会となり、誇りや生きがいを感じることもつながっている。

4 郡上市立大和北小学校の実践について

～コミュニティ・スクールを活用した「ふるさと教育」～

郡上市のふるさと教育「郡上学」の実践を核として、発達の段階に応じて、地域に住む様々な人と出会う学習を位置付けた実践を行っています。

【第1・2学年 地域を知り、地域の人に出会う 生活科】

J Aめぐみの職員と一緒に野菜の苗を植える活動を行っています。

地域の人材を有効に活用し、ふるさとのよさをより強く感じることができる工夫がなされています。

【第3学年 大和の自慢を見つけよう】

大和町のイベント「長良川夢花火」についての学習を実施しています。その際に、観光協会の方や地元の花火師に話を聞く活動を行っています。



【第4学年 みんなの宝 長良川】

長良川の生態系を調べる学習や、アマゴの稚魚を放流する体験を通して、漁業協同組合の方に教わったり、地元の自然教室のインストラクターの方から話を聞いたりする活動を行っています。



【第5学年 地域の方から学ぶ米作りと地元の財産「剣用水」の歴史とそれを守る人々】

毎年実施している子どもたちによる米作りを通して、地元米農家の方から教えていただいたり、地元の「剣用水」の歴史を知る方から話を聞いたりする活動を行っています。

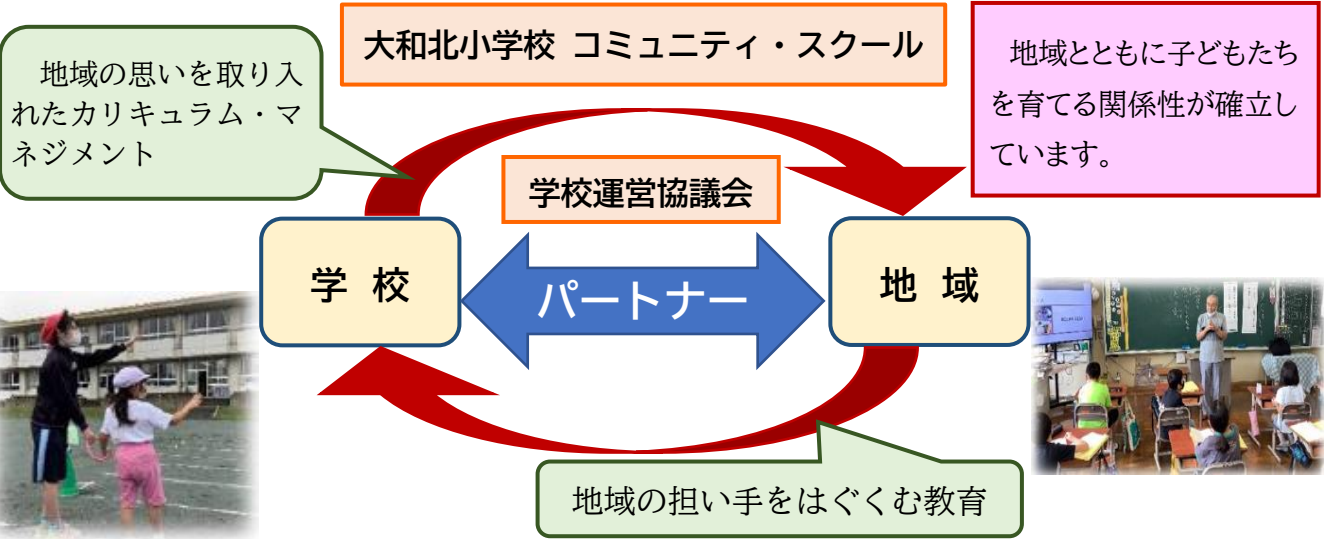
【第6学年 短歌のまちの子として 短歌を通じて、人とつながる、心をつなげる】

「古今伝授の里やまと」の学習として、短歌に取り組んでいます。同じ大和町内にある他の小学校の子どもたちと交流する活動を行っています。



～地域の人と共に創る「ふるさと教育」～

コミュニティ・スクールとしての学校と地域づくりを行い、「学校と地域がパートナーとなってよりよい地域や学校を共に創っていく」という思いや願いを大切にしています。



海津市立平田中学校



1 学校の教育目標

きたえあい 自己を高める

2 ねらい

ふるさとである海津市の特産物を使った商品を開発・販売する活動を通して、地域の方とつながったり、SNSなどによる広報を行ったりすることで、ふるさとの魅力に気づき、ふるさとをよりよくしようと主体的に活動できる生徒を育てる。

3 実践の概要

(1) 地域の方とふるさとの名産「南濃みかん」を活用した南濃みかんジュースの商品開発

地域の方と交流を行い、みかんジュースの商品開発を一緒に行った。主な活動は、南濃みかんの収穫、みかんジュースを入れる瓶と商品棚に飾る際のラベルパッケージ作りである。事業を展開するために必要な資金をクラウドファンディングで集めたり、SNSを利用して広報を行ったりした。地域の事業者の方との交流を通して、生徒のふるさとへの理解を深め、郷土愛を育てることにつながった。



(2) 学習の流れ

[10月下旬] 「南濃みかんプロジェクト」開始

・海津市の地元企業の方から、トマトの生産が岐阜県で1位であることや、海津で作っているじゃがいもが、小売店等で販売されているスナック菓子に使われていることなど、具体的な海津市の農産物の魅力について具体的に話をしていただいた。南濃みかんの生産に関わって、プロジェクトへの意欲や目標をもった。

[11月中旬] 南濃みかんの収穫体験

・地元のみかん農園での収穫体験を通して、海津市の地形を生かした栽培方法を知ったり、一つのみかんを作るだけでも多くの苦労があることを実感したりすることができた。



[11月下旬] 南濃みかんジュースを入れる瓶のラベルデザイン①

・収穫したみかんをジュースにしている工場の方とリモートでの質疑応答を行い、製造工程の中で多くの手間や時間をかけていることを知る機会となった。
・デザイナーの方から、デザインに関わる講義をしていただき、ラベルデザインの制作をした。実際に商品となるみかんジュースの瓶を目の前にしてイメージをすることで、よりよいラベルにしようと、真剣に取り組むことができた。

[12月上旬] 南濃みかんジュースを入れる瓶のラベルデザイン②

・生徒作成のラベルをSNSインフルエンサーの方に発信してもらい、フォロワーからの投票で南濃みかんジュースに貼るラベルを選んでもらうことを企画した。

[12月中旬から] クラウドファンディング開始

・地元企業の方のお力添えをいただき、クラウドファンディングを実施した。生徒は、活動の様子やサンクステターなどを提供し、事業の拡大に貢献した。

[12月下旬] ラベル貼り

・ラベルデザインの決定及び印刷、生徒の手でラベルを瓶に貼る作業を行った。

[1月上旬] 市長表敬訪問

・開発した商品についての報告と今後の見通しについて、海津市長に向けてプレゼンテーションを行った。

4 海津市立平田中学校の実践について

～探究的な学習の過程を大切にした「ふるさと教育」～

総合的な学習の時間における「探究的な学習の過程」は、学習指導要領解説にも記されているとおり、総合的な学習の時間の中心に据えられています。平田中学校では、「ふるさと教育」を通して生徒自らが探究することを大切に実践しています。

【課題の設定】

- ・ 海津市の農産物の魅力やSDGsについての学習から、今後の学習全体についての課題を設定し、南濃みかんを活用したプロジェクトについての概要を知り、見通しをもちました。



【情報の収集】

- ・ 実際に南濃みかんを収穫したり、収穫したみかんでジュースを製造する工場をリモート見学したりして、栽培やジュース製造に携わる人々の手間や苦労について学びました。
- ・ プロジェクトの具体的な発信方法等について学び、理解を深めました。

【まとめ・表現】

- ・ 今回のプロジェクトを通して学んだことを話し合い、まとめました。
- ・ 開発した商品についての報告と今後の見通しについて、海津市長にプレゼンテーションを行いました。



【整理・分析】

- ・ ラベルデザインを制作し、よりよいものになるよう議論したり、試行錯誤したりしました。
- ・ SNSでの発信やクラウドファンディングについて学びました。



～地域人材とのつながりで学ぶ「ふるさと教育」～

学習の実施にあたって、地元企業の方が中心となり、生徒の学習と講師をコーディネートしています。南濃みかんの栽培、ラベルデザイン、商品化、情報発信の仕方など、地域の事業者やその道のプロから直接学んだり、協働したりして、ふるさとへの理解を深め、郷土愛を育てています。

① 地元企業の方から海津市の農産物の魅力やSDGsについて学ぶ



② 地元農家の方から南濃みかんの栽培について学ぶ（収穫体験）



③ ジュース製造工場の方から手間や苦労について学ぶ



④ デザイナーの方からラベルデザインについて学ぶ



プロジェクト完了
→ 次のプロジェクトへ



⑥ 地元企業の方からクラウドファンディングや資金集めについて学ぶ



⑤ SNSインフルエンサーの方から効果的な発信方法を学ぶ



令和5年度「岐阜県ふるさと教育表彰」最優秀賞

美濃加茂市立伊深小学校



1 学校の教育目標

明るく 笑顔 あふれる伊深っ子 ～学び合う 思いやる やりぬく～

2 ねらい

伊深の地域・自然・文化・人々に関わる体験的な学習を通して、ふるさとについて6年間を通して段階的に知り、よさや課題を理解して愛着や誇りをもつとともに、よりよく生きようとする態度を育てる。

3 実践の概要

(1) ふるさと教育の重点

全ての子が生きる力を身に付けるための教育の一つとして「ふるさとから学び生きる土台をつくる教育」を進めており、柱となる総合的な学習の時間には、伊深町の自然・歴史・文化等について、発達の段階に応じて発展的に学ぶ機会を設定している。

その中で、3つの活動「知る」「関わる」「発信する」の学習過程を仕組み、「地域についてよく知ること」「地域の自然・歴史・文化・人々と直接関わる体験をすること」「学んだことや自分の考えを発信すること」により、地域への愛着や誇りを持ち、よりよく生きようとする態度をはぐくむ学習を展開している。

(2) 関係機関との連携による地域講師や地域素材の活用

自然豊かで、歴史ある土地を支える地域の方や専門家との関わりを大切にし、創立から150年間で築いた多くの人々とのつながりによる、「関わる」ふるさと教育の充実を図っている。

大洞川、川浦川、天王用水、正眼寺を町の資源や歴史として捉え、保護者や地域住民と共に生きようとする態度をはぐくむ学習を展開している。

(3) 各教科等との関連を図った横断的な学習の実践

総合的な学習の時間を柱に、社会科、理科、音楽科、家庭科を中心とした教科等横断的な教育課程を編成し、児童の「なぜ」「こうしたい」「もっと知りたい」「よりよくしたい」という願いに基づき、テーマに対して主体的に追究を進め、自ら設定した課題の解決に向け、探究的に活動を進める学習を展開している。

(4) 保育園との交流

「関わる」「発信する」対象として、隣接する保育園を設定し、園児と児童の交流により、知り得た地域の情報を発信し伝えるだけでなく、外部講師から学んだ郷土料理を振る舞うなど、体験に基づくふるさとの「よさ」を伝える学習を展開している。

ふるさと教育に関わらず、児童による園児への読み聞かせ会や図書館開放等、日常的に交流する機会を位置付け、地域から得た情報を交流の場で自然に伝えることができるようにしている。



4 美濃加茂市立伊深小学校の実践について

～関わり・体験し・考えをもつ「ふるさと教育」～

第1・2学年 【施設から学ぶ】生活科 × ふるさと教育

- 体験** 学校探検から町の施設探検へ広げ、学校を支える「もの」「人」「施設」を知る。
- 関わり** 地域の見守りを行っている方へのインタビューから、地域との関わりを築く。
- 考え** 地域を支える人の思いや願いに触れ、「伊深大好き」の思いをより一層大きくする。

第3学年 【用水路から学ぶ】社会科 × ふるさと教育

- 体験** 130年前の水不足を救った用水路を実際に散策し、用水路を生活とつなげて理解する。
- 関わり** 地域の方から用水路に関わる歴史を、正眼寺住職から地域の偉人について学ぶ。
- 考え** 地域の方が親しむための「用水路散策コース」を考え、リーフレットを作成する。

第4学年 【川から学ぶ】理科 × ふるさと教育

- 体験** 川の水質や川に生きる生物の継続的な調査、河川環境楽園での共同調査を行う。
- 関わり** 県・市・大学・地域の環境に関わるスペシャリストから環境について学ぶ。
- 考え** 「きれいな川を保ちたい！」自然との共存に何が大切であるかを考え、地域に発信する。

第5学年 【郷土料理から学ぶ】家庭科 × ふるさと教育

- 体験** まちづくり協議会の協力で米作りを体験し、ごはん料理研究会の方から郷土料理を学ぶ。
- 関わり** 学んだことを隣接する保育園との関わりの中で伝えるとともに、地域への思いを語る。
- 考え** 郷土料理の工夫や知恵を知ることで、食文化の重要性に対する自らの考えをもつ。

第6学年 【歴史から学ぶ】社会科 × ふるさと教育

- 体験** 創立150年の歴史について、歴史書により各年代の「教育活動」の変遷を調査する。
- 関わり** 旧校歌と現校歌の歌詞について理解し、地域の方との合唱交流を行う。
- 考え** 歴史ある各活動を継続し、伊深を想う心を伝えるためにリーフレットを作成し披露する。

～教科等横断的な学びで深める「ふるさと教育」～

国語科「ペープサート劇で伝えては」
 社会科「わたしたちのまち」
 「のこしたいもの つたえたいもの」
 算数科「時刻と時間」

道徳科「自然愛護」
 理科「季節と生き物」
 社会科「水はどこから 森の働き」
 「ごみのしよりと利用」
 「自然災害からくらしを守る」

第3学年
伊深を巡る

第4学年
環境を考える

「ふるさと教育」
×
「総合的な学習の時間」

第5学年
知恵を発信

第6学年
町づくり

家庭科「ご飯とみそ汁」
 社会科「米づくりのさかんな地域」
 「わたしたちの生活と食糧生産」
 算数科「時刻と時間」

理科「大地のつくりと変化」
 国語科「日本文化を発信しよう」
 音楽科「心をつなぐ歌声」
 道徳科「伝統と文化の尊重、
 国や郷土を愛する態度」

- 理科で学んだ「見いだした問題を計画的に追究する」能力
- 社会科で学んだ「社会的事象を調査したり、資料を活用したりして考える」能力

恵那市立東野小学校



1 学校の教育目標

豊かで 明るく たくましい東野の子

2 ねらい

東野を大切に思うよき大人と出会い、東野のよさを体験的に知り、理解を深める中で、ふるさと東野への誇りと愛着を醸成するとともに、地域の役に立つ喜びを味わうことで、地域の担い手としての自覚を高める。

3 実践の概要

(1) 総合的な学習の時間を核に、系統性、教科等横断的な視点を意識した学習活動の位置付け

地域の誇る自然・歴史・文化・産業等についての関心と理解を深め、「ふるさと東野」に誇りと愛着をはぐくむ活動を教育課程に意図的・計画的に位置付け、総合的な学習の時間を核に、児童の発達段階に応じ、系統性、教科等横断的な視点を意識しながら実践している。

■ 例 ① 森林学習 (第4・5・6学年)

<学習内容>

- ・ 阿木川ダム見学 (第4学年)、・ 間伐体験 (第5学年)
- ・ 卒業記念植樹 (第6学年)

<教科等との関わり>

- ・ 流れる水のはたらき (第5学年理科)、
- ・ 自然災害を防ぐ (第5学年社会科)、・ 変わり続ける大地 (第6学年理科)



■ 例 ② 栽培学習 (第1～5学年)

<学習内容>

- ・ 花・大根 (第1学年)、・ サツマイモ (第2学年)、・ 大豆 (第3学年)、・ 米 (第4・5学年)

<教科等との関わり>

- ・ すがたをかえる大豆 (第3学年国語科)、・ 生活科、・ 総合的な学習の時間

(2) 地域貢献の場を設定し、はぐくんだ誇りや愛着、感謝の思いを伝える工夫

地域学校協働本部を母体とした地域講師、歌舞伎保存会、JA 食農リーダー、東野青少年育成会議、県立恵那農業高等学校、東野生産森林組合、阿木川ダム管理事務所等の諸機関と、学校の願いの共通理解を大切に企画し、連携を図って学習を進めている。

- ① 自然環境(山野・河川・動物・植物・その他) [東野森林学習・自然探検クラブ、阿木川ダム]
- ② 歴史(出来事・史跡・先人・その他) [シクラメン学習]
- ③ 文化(芸能・芸術・民話・風習・その他) [歌舞伎クラブ・東野音頭・東野ダンス]
- ④ 地場産業(農業・水産業・伝統芸能・その他) [米・野菜づくり・シクラメン学習]
- ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等[防災学習・地域花壇づくり・収穫祭]

4 恵那市立東野小学校の実践について

～外部資源を活用し、ふるさとへの誇りと愛着をはぐくむ「ふるさと教育」～

森林学習



・東野生産森林組合 ・恵那山荘
・阿木川ダム管理事務所

栽培学習



・地域学校協働本部派遣講師
・JA食農リーダー ・地域の農家の方々

ふるさとへの
誇りと愛着をはぐくむ



・地域講師
・東野歌舞伎保存会

クラブ活動・東野ダンス



・県立恵那農業高等学校
・老人クラブ(東雲会)

シクラメン学習・地域花壇づくり

～社会参画へつながる地域貢献への思いをはぐくむ「ふるさと教育」～

自分たちの住む地域の主要産業の一つである「米づくり」。ふるさとを大切に思うよき大人と共に、田植えから昔の農具を使って脱穀するまでの体験を通して、児童は生産の苦勞を学ぶとともに収穫の喜びや自分で育てたものを味わう喜びを実感します。



「収穫祭」を自分たちで計画・運営し、お世話になった方々に学んだことを発表するとともに、感謝の気持ちを伝えることで、さらに地域の方とのつながりを強くし、社会(ふるさと)参画へつながる地域貢献への思いをはぐくんでいます。

同じ問題の解決を目指す地域の人や行政機関、専門家との協働

立場が異なる他者と繰り返し関わる場を設定し、目的に照らして多様な視点で検討し、一つのものにまとめていくことで、事象に対する認識が深まります。

成果の検証

例えば、参加者にアンケートを取るなど、成果を検証する場面を設定することで、児童が新たな課題を設定することにつながります。



飛騨市立古川中学校



1 学校の教育目標

自主 自ら考え 判断し 行動する姿
自律 目標をもち 粘り強く やり抜く姿
協働 仲間と協力して取り組む姿

2 ねらい

飛騨市の学校教育の方針「志を語り合い しなやかに挑み続ける飛騨びと」を具現するために、全校体制で、地域で活躍する様々な方(防災・職業・マイプロで関わる方)から思いを聴いたり、実際に仕事の体験をしたりしている。普段から取り組んでいる「自分らしさのレベルアップ」を実現するために、これらの活動や体験を通して、ふるさと飛騨市のために貢献したいという意欲と、自主・自律・協働の力を身に付ける。

3 実践の概要

(1) マイプロについて

古川中学校では、マイプロジェクトを核としたふるさと教育に取り組んでいる。マイプロジェクト(通称:マイプロ)とは、右に示した考えで取り組む「課題解決型探究学習」である。この学習を全学年で展開している。

(2) 各学年の題材について

第1学年では「防災」を題材とし、生徒たちが防災を自分事として捉え、地域をフィールドに知識や技能を身に付けながら、「自分は何ができるか」、「どう取り組むか」を考えて、実際に行動に移していく。

第2学年では「職業(キャリア)」を題材とし、地域と深く関わる授業や活動を実施しながら、「職」について身に付けた知識や技能をもとにして、飛騨市内の事業所で職場体験を行っている。また、カリキュラムの中で、国語科、社会科×総合的な学習の時間の往還によって、表現力の育成を図っていく。

第3学年では「地域貢献」を題材とし、飛騨市まちづくり観光課や都市整備課などの行政や観光協会等と関わりながら、生徒一人一人が「自分は地域のために何ができるのか」を考えたり、地域の方のニーズに応えたりして、プロジェクトを立ち上げ、実行に移していく。

このような活動を通して、生徒は主体的に地域のワークショップやイベントへ参加・参画するようになった。生徒が地域に関わろうとする意識が高くなるとともに、地域で活動を通して、地域の方から認められる機会が増え、自己有用感が高まった。

古川中学校「マイプロジェクト」

(略称:古中マイプロ)

【プロジェクトの考え方】

自分の**思い(興味・関心等)**や
よさ(得意・好き等)を生かして、
人から**「ありがとう」と**言われる
活動の**創造(企画)と実施**



4 飛騨市立古川中学校の実践について

～「自分らしさ」を生かした「ふるさと教育」～

第1学年の「防災」を題材とした実践では、探究的な学習の過程を大切にしており、「情報の収集」、「整理・分析」したことを、自分らしさを生かして「まとめ・表現」へとつなげています。そして、「まとめ・表現」では、地域へアウトプットすることを積極的に行っています。

紙芝居を用いて



保育園を訪問し、紙芝居やぬいぐるみを用いた寸劇で伝えていきます。

一緒に避難訓練をして



介護施設を訪問し、施設の方々と一緒に避難訓練に参加します。

ゲーム形式で



小学校を訪問し、学んだことをもとに防災について児童に教えます。

相手意識をもちながら、自分の得意や好きを生かして、どのようにアウトプットするのかを考えていきます。ここで生徒の思考力・判断力・表現力等の資質・能力がはぐくまれます。

アウトプットする経験の中で、生徒は地域の方からの評価を受けます。評価されることで、生徒は「充実感」や「自己有用感」を実感します。また、生徒自身が活動に対して、「さらにこんな工夫をしたい」という思いが生まれ、次の課題設定へとつながります。

～地域人として、生きる力をはぐくむ「ふるさと教育」～

第3学年の「地域貢献」を題材とした実践では、行政機関や観光協会、地元企業等と関わりながら活動を進めています。企画段階での会議やワークショップに中学生が参画・参加し、企画からPR活動、当日の運営まで、自分のテーマと向き合いながら探究を進めていきます。

「このようにしたらよいと思う」という提言だけで終わるのではなく、「実際に自分がどう関わるのか」を考えて探究を進めたことで、生徒の地域に対する意識が高くなりました。

フードロス为主题とした 地元果樹園との活動



落ちて商品にならなくなった桃を用いたスムージーを考案し、実際に果樹園のメニューに加えていただきました。

- 自分のマイプロを振り返り、「願い」がどのように実現できたか、「自分らしさ」を大切にしているような力が身に付いたのかをまとめ発信することで、卒業後の地域貢献への思いや、主体的に活動する姿勢につなげていきます。

小学生の体力について考え スポーツ教室を企画・運営

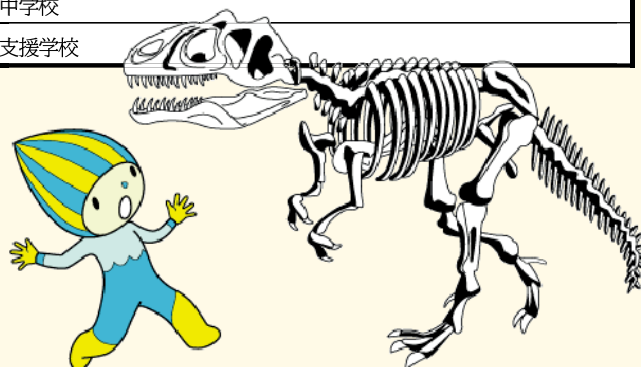


地域のスポーツ協会と協力し、キッズサッカー教室、プール教室の企画・運営をしました。

地域の行政、観光協会、地元企業との関わりの中で、実社会の中から問いを見だし、課題を解決するために創意工夫し、地域貢献を通して自己の生き方について考えていくことができます。

令和4年度「岐阜県ふるさと教育表彰」最優秀賞・優秀賞受賞校一覧

校種	地区	最優秀賞	優秀賞		
小学校	岐阜	各務原市立蘇原第二小学校	岐阜市立三輪南小学校	羽島市立竹鼻小学校	羽島市立堀津小学校
			山県市立大桑小学校	山県市立桜尾小学校	山県市立伊自良南小学校
			山県市立伊自良北小学校	本巣市立席田小学校	
	西濃		大垣市立時小学校	養老町立養老小学校	養老町立広幡小学校
			養老町立上多度小学校	養老町立池辺小学校	養老町立笠郷小学校
			養老町立養北小学校	養老町立日吉小学校	垂井町立垂井小学校
			垂井町立宮代小学校	垂井町立表佐小学校	垂井町立合原小学校
			垂井町立府中小学校	垂井町立岩手小学校	垂井町立東小学校
			関ヶ原町立関ヶ原小学校	揖斐川町立大和小学校	揖斐川町立北方小学校
	美濃	郡上市立大和北小学校	関市立田原小学校	関市立洞戸小学校	美濃市立藍見小学校
郡上市立大和南小学校			郡上市立石徹白小学校	郡上市立三城小学校	
可茂		美濃加茂市立山之上小学校	美濃加茂市立蜂屋小学校	美濃加茂市立加茂野小学校	
		美濃加茂市立伊深小学校	美濃加茂市立三和小学校	可児市立帷子小学校	
		川辺町立川辺北小学校	八百津町立錦津小学校	八百津町立久田見小学校	
東濃		多治見市立養正小学校	瑞浪市立稲津小学校	瑞浪市立明世小学校	
		瑞浪市立日吉小学校	瑞浪市立釜戸小学校	恵那市立中野方小学校	
		恵那市立恵那北小学校	恵那市立飯地小学校	恵那市立武並小学校	
		恵那市立長島小学校	恵那市立東野小学校	恵那市立大井第二小学校	
		恵那市立三郷小学校	恵那市立上矢作小学校	中津川市立阿木小学校	
飛騨		高山市立南小学校	高山市立清見小学校	飛騨市立古川小学校	
		飛騨市立古川西小学校	飛騨市立河合小学校	飛騨市立宮川小学校	
		飛騨市立神岡小学校	下呂市立中原小学校		
中学校	岐阜	岐阜市立加納中学校	山県市立高富中学校		
			養老町立高田中学校	垂井町立不破中学校	垂井町立北中学校
	西濃	海津市立平田中学校	大垣市・安八郡安八町組合立東安中学校		
			郡上市立大和中学校	郡上市立高鷲中学校	
	可茂		八百津町立八百津東部中学校	白川町立黒川中学校	
			土岐市立泉中学校	恵那市立恵那北中学校	恵那市立山岡中学校
東濃		恵那市立明智中学校	恵那市立上矢作中学校		
		高山市立荘川中学校	高山市立北稜中学校	飛騨市立古川中学校	
飛騨		飛騨市立神岡中学校	下呂市立小坂中学校		
義務教育学校	岐阜	羽島市立桑原学園			
小中合同	東濃	恵那市立串原小・中学校			
	飛騨	飛騨市立山之村小中学校			
特別支援学校	東濃	岐阜県立恵那特別支援学校			



令和5年度「岐阜県ふるさと教育表彰」最優秀賞・優秀賞受賞校一覧

校種	地区	最優秀賞	優秀賞				
小学校	岐阜		岐阜市立三輪南小学校 羽島市立正木小学校 山県市立桜尾小学校 山県市立いわ桜小学校 本巣市立席田小学校	岐阜市立芥見東小学校 羽島市立竹鼻小学校 山県市立伊自良南小学校 本巣市立外山小学校 本巣市立土貴野小学校	羽島市立小熊小学校 山県市立大桑小学校 山県市立伊自良北小学校 本巣市立弾正小学校		
		西濃		大垣市立南小学校 海津市立吉里小学校 養老町立広幡小学校 養老町立笠郷小学校 垂井町立宮代小学校 垂井町立府中小学校 安八町立牧小学校 揖斐川町立清水小学校	大垣市立日新小学校 海津市立城山小学校 養老町立上多度小学校 養老町立日吉小学校 垂井町立表佐小学校 垂井町立岩手小学校 揖斐川町立大和小学校 揖斐川町立谷汲小学校	大垣市立時小学校 養老町立養老小学校 養老町立池辺小学校 垂井町立垂井小学校 垂井町立合原小学校 垂井町立東小学校 揖斐川町立北方小学校	
			美濃		関市立安桜小学校 郡上市立大和南小学校	関市立武儀小学校 郡上市立大和北小学校	美濃市立美濃小学校
			可茂	美濃加茂市立伊深小学校	美濃加茂市立山之上小学校 美濃加茂市立三和小学校 川辺町立川辺北小学校 八百津町立久田見小学校 御嵩町立上之郷小学校	美濃加茂市立蜂屋小学校 美濃加茂市立下米田小学校 七宗町立上麻生小学校 白川町立蘇原小学校	美濃加茂市立加茂野小学校 可児市立春里小学校 八百津町立八百津小学校 白川町立佐見小学校
	東濃				恵那市立東野小学校	多治見市立市之倉小学校 瑞浪市立稲津小学校 瑞浪市立釜戸小学校 恵那市立飯地小学校 恵那市立大井第二小学校 恵那市立明智小学校	土岐市立妻木小学校 瑞浪市立明世小学校 恵那市立中野方小学校 恵那市立武並小学校 恵那市立三郷小学校 恵那市立上矢作小学校
			飛騨			高山市立東小学校 高山市立江名子小学校 飛騨市立古川小学校 飛騨市立宮川小学校	高山市立西小学校 高山市立花里小学校 飛騨市立古川西小学校 飛騨市立神岡小学校
	中学校		岐阜		岐阜市立本荘中学校 岐阜市立陽南中学校		
		西濃		大垣市立東中学校 養老町立高田中学校 垂井町立北中学校 大垣市・安八郡安八町組合立東安中学校	大垣市立江並中学校 養老町立東部中学校 関ヶ原町立関ヶ原中学校	海津市立平田中学校 垂井町立不破中学校 輪之内町立輪之内中学校 揖斐川町立谷汲中学校	
			美濃		関市立小金田中学校 郡上市立大和中学校	関市立津保川中学校 郡上市立高鷲中学校	郡上市立八幡中学校
		可茂		八百津町立八百津東部中学校 白川町立黒川中学校	可児市・御嵩町中学校組合立共和中学校		
東濃			瑞浪市立瑞浪北中学校 恵那市立恵那北中学校 恵那市立明智中学校 中津川市立阿木中学校	恵那市立恵那西中学校 恵那市立岩邑中学校 恵那市立上矢作中学校 中津川市立神坂中学校	恵那市立恵那東中学校 恵那市立山岡中学校 中津川市立第一中学校		
		飛騨	飛騨市立古川中学校	高山市立丹生川中学校 飛騨市立神岡中学校	高山市立荘川中学校 高山市立北稜中学校		
義務教育学校	岐阜		羽島市立桑原学園 本巣市立根尾学園				
	飛騨		白川村立白川郷学園				
小中合同	東濃		土岐市立濃南小・中学校 恵那市立串原小・中学校				
	飛騨		飛騨市立山之村小中学校				
特別支援学校	岐阜		岐阜市立岐阜特別支援学校（中学部）				

「ふるさと教育」×「総合的な学習の時間」実践にあたって

●県内の多くの学校では、「総合的な学習の時間」の中で「ふるさと教育」が実践されています。実践を進める際に、大切にしたいポイントは次のとおりです。

総合的な学習の時間について

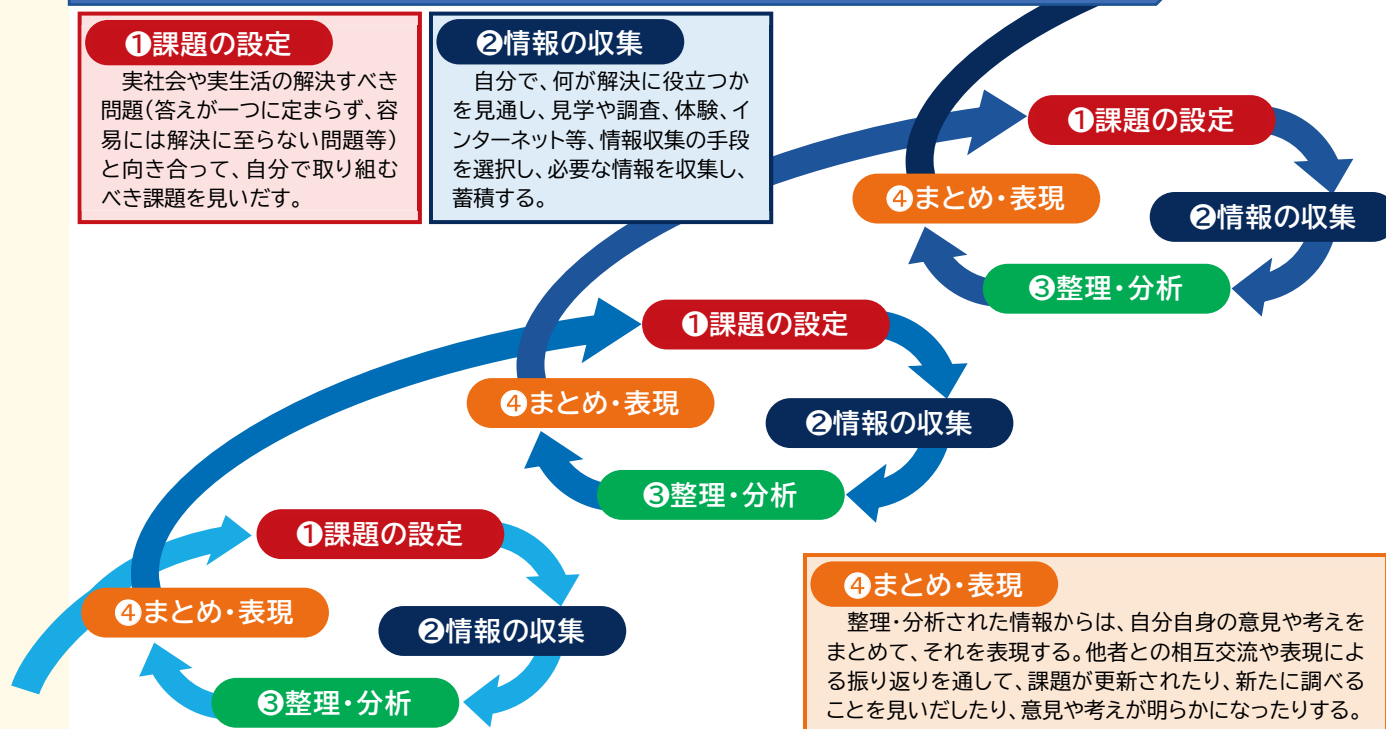
— 探究的な学習の過程を重視 —

【総合的な学習の時間の目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

探究的な学習における児童生徒の学習の姿



③整理・分析

整理は、課題の解決にとってその情報が必要かどうかを判断し取捨選択することや、解決の見通しにしたがって情報を順序よく並べたり、書き直したりすることなどを含む。

分析は、整理した情報を基に、比較・分類したりして傾向を読み取ったり、因果関係を見付けたりすることを含む。複数の情報を組み合わせ、新しい関係性を創り出すことも重要となる。

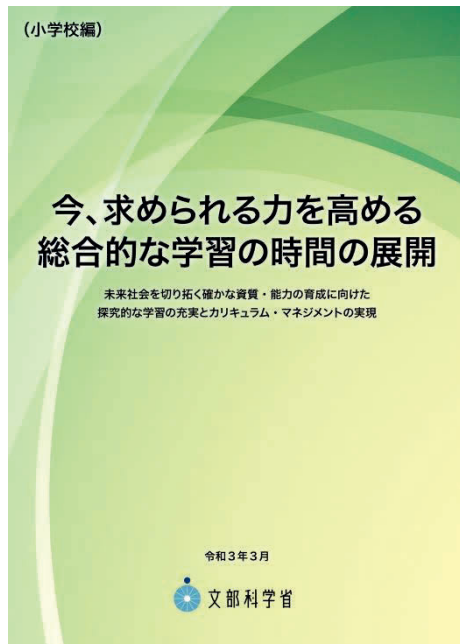
探究のプロセスを支える「探究的な見方・考え方」

- ◆各教科等の特質に応じた見方・考え方
 →探究的な学習の過程において、適宜必要に応じて総合的に活用する。
- ◆総合的な学習の時間に固有な見方・考え方
 →特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉える。また、課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるとい、総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方であり、それらを働かせながら横断的・総合的な学習に取り組む。

●上記の①②③④の過程を固定的に捉える必要はなく、物事の本質を探ってみ極めようとするとき、活動の順序が入れ替わったり、ある活動が重点的に行われたりすることは起こり得ます。

参考資料

<小学校参考資料>



◆「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」
(小学校編)…文部科学省ホームページ内



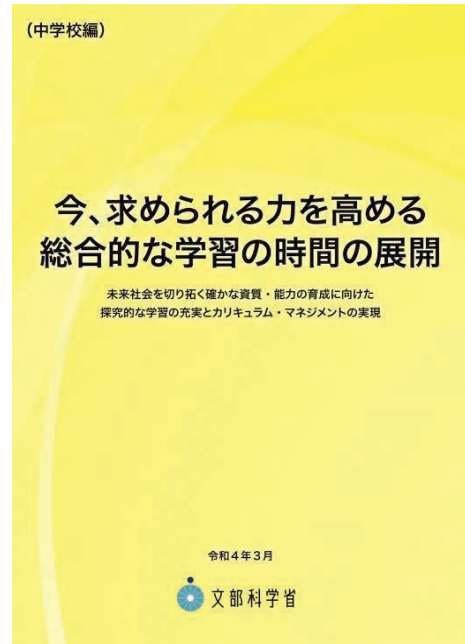
◆小学校学習指導要領(平成29年告示)解説
「総合的な学習の時間編」…文部科学省ホームページ内



◆「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する
参考資料 <小学校> 総合的な学習の時間
…国立教育政策研究所ホームページ内



<中学校参考資料>



◆「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」
(中学校編)…文部科学省ホームページ内



◆中学校学習指導要領(平成29年告示)解説
「総合的な学習の時間編」…文部科学省ホームページ内



◆「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する
参考資料 <中学校> 総合的な学習の時間
…国立教育政策研究所ホームページ内



※上の二次元コードをタブレットPC等のカメラで読み込むと、資料掲載ページにアクセスすることができます。



岐阜県ふるさと教育実践集

～ふるさとへの誇りと愛着をはぐくむ～

発行年月 令和 6 年 3 月

編集発行 岐阜県教育委員会

〒500-8570 岐阜県岐阜市藪田南 2-1-1

TEL 058-272-1111(代表)

E-mail c17785@pref.gifu.lg.jp

